

事項	おうとう「紅秀峰」は果実の横径が8mm以上になると摘果できる。		
ねらい	おうとう「紅秀峰」は豊産性のため着果過多となり、果実品質の低下や樹勢衰弱を招きやすい。早期適正着果による高品質生産のため、果実横径を指標とした摘果時期を明らかにしたので参考に供する。		
指導 参考 内容	<p>1 生理的落果と果実の生育</p> <p>(1) 「紅秀峰」では、結実する果実と落下する果実の生育差は満開後10～12日から見られ、満開後17日以降に顕著になる。</p> <p>(2) 落下する果実の横径は8mm未満が多い。</p> <p>2 果実の横径を指標とした摘果の時期</p> <p>(1) 果実の横径と生理的落果及び結実の分布から、果実の横径8mm以上を摘果の判定指標とする。</p> <p>(2) 横径8mm以上になった果実が1花束状短果枝当たり4個以上現れる満開後17日ころを摘果の開始時期とする。</p> <p>3 果実品質</p> <p>横径8mm以上の果実を1花束状短果枝当たり2果残して摘果した場合、収穫時の果実品質は糖度が高く、着色が良好となる。</p>		
期待される効果	摘果作業が計画的に進められ、果実品質の向上が図れる。		
利用上の注意事項			
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センターりんご試験場 県南果樹研究センター (藤村泰樹)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成19～20年度 青森県農林総合研究センターりんご試験場試 県南果樹研究センター試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

- (注) 1 供試品種：「紅秀峰」/アオバザクラ
 2 仕立て方・樹齢：
 平成19年；変則主幹形9年生
 平成20年；主幹形6年生
 3 栽植距離：5m×4m
 4 供試樹数：平成19年；2樹
 平成20年；1樹
 5 満開日：平成19年；5月6日
 平成20年；4月29日
 6 人工授粉：毛ばたきで2回実施
 7 調査花束状短果枝数・調査果数：
 平成19年；16個203果
 平成20年；12個174果
 8 結実果：収穫まで着果した果実
 9 落下果実：収穫までに落下した果実

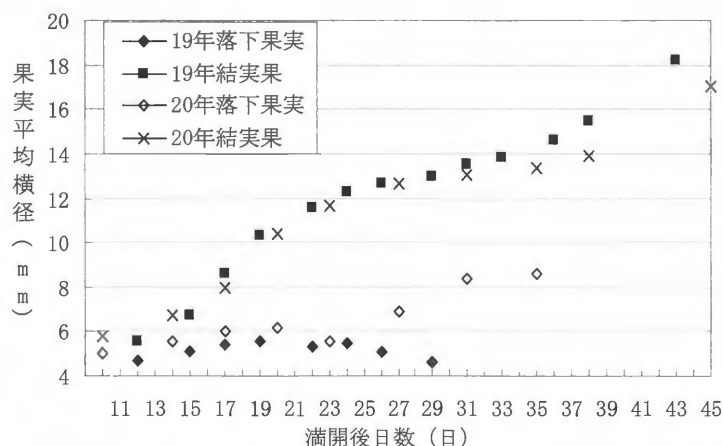


図1 満開後日数と果実の大きさ

(平成19～20年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

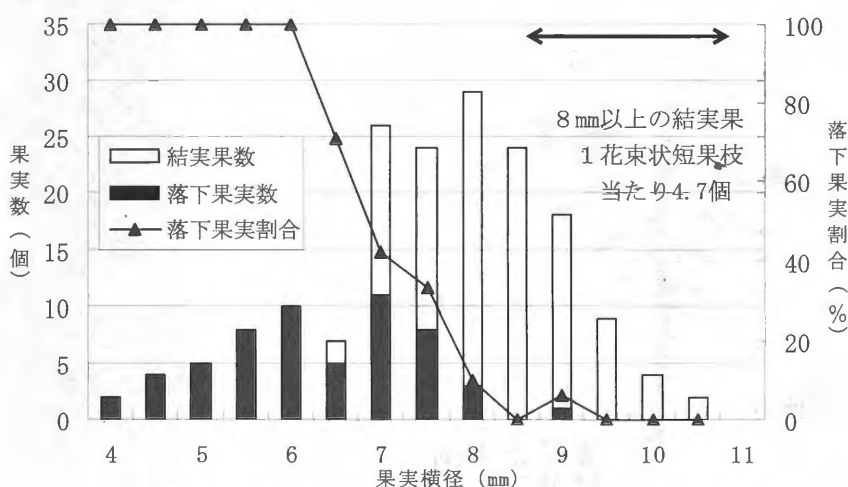


図2 満開後17日における結実果、落下果実の横径別分布

- (注) 1 結実果：収穫まで着果した果実
 2 落下果実：収穫までに落下した果実

(平成20年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

表1 摘果と果実品質

(平成20年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

区名	摘果月日 (満開後日数)	果実横径 (mm)		収穫時 着果数	果実品質			
		5/16	5/26		1果重 (g)	着色 程度	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)
早期摘果区	5/16 (17日)	8.5	13.5	2.0	5.7	4.0	23.8	0.38
慣行摘果区	5/26 (27日)	7.4	12.3	2.0	6.7	4.0	20.4	0.48
無摘果区	—	7.3	11.9	9.6	5.1	3.0	17.8	0.43

- (注) 1 供試樹数：各区1樹
 2 摘果方法：早期摘果区；果実横径8mm以上、
 慣行摘果区；大きめの果実をそれぞれ1花束状
 短果枝当たり2果残した。
 3 人工授粉：4月29日、5月4日 (毛ばたき)
 4 雨よけ施設：6月19日～収穫；ビニール被覆
 5 収穫時着果数：1花束状短果枝の着果数
 6 着色程度：1～5 (数字の大きいほど着色良)
 7 収穫日：7月8日
 8 果実調査：7月10日に各区毎に30果を調査